



Agenda

4 ICT教育

タブレット端末などを活用し、授業形態が進化。
安全で適切なICTの利用へも配慮しています。

桐蔭学園では2015年度から中学・中等1年生に1人1台タブレット端末(iPad)を貸与し、ICT機器を活用した教育を本格的に開始しました。各教室へのプロジェクターとスクリーン、あるいは電子黒板の設置も進めています。

ICT機器を活用した情報収集やコミュニケーションが一般化する中で、中学生の段階からICTリテラシーを身につけ、ICTを活用した学習を行っていくこと

が求められています。本校では、学校側で適切なフィルタリング機能を設定することで、安全な利用環境を確保しています。授業など学校生活の様々な場面での活用が進み、ICT教育の充実は生徒たちの学びを豊かにする大きな可能性があると感じています。

生徒が1人1台自身専用のタブレット端末を使用。リテラシー教育も実施

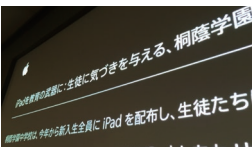
本校で使用しているタブレット端末には、個別学習支援や自習で使う「e-トレ」という問題集や、写真や動画、テキストを簡単に組み合わせてプレゼンテーション資料などをつくることのできるアプリケーション「ロイロノートスクール」「Keynote」などが導入されています。授業など学習時の使用に加えて、一人ひとりの生徒の成績管理や、忘れ物などホームルームでの連絡事項の伝達など学校生活全般で活用しています。以前と比べて生徒と教員の間の情報共有が円滑になり、コミュニケーションを充実させる助けとなっています。

本校ではタブレット端末を学校で一括購入し生徒へ貸与する形式をとることで、安全で適切な利用の実現に取り組んでいます。貸与したタブレット端末では不適切なウェブサイトへのアクセスや娯楽目的での利用を制限しているほか、深夜時間帯に使える機能を限定しているため、ご家庭で個別に設定していただくよう配慮しています。

ICT機器を導入すると同時に、生徒たちがインターネット利用時に守るべきマナーや危険性について理解を深められるよう、ICTリテラシー教育も行っています。学校側が使用制限をかけるだけではなく、生徒自身が適切な使い方について考えられるよう、今後も指導を行っていきます。

INFORMATION

タブレット端末導入についてApple Storeにて講演



教育現場にて学校がフィルタリングを行った上でタブレット端末を導入した事例は、全国でも先駆的であり、様々なメディアに取り上げられました。2015年8月には、本校ICT教育委員会の担当教員が、Apple Store 銀座にて「iPadを教育の武器に：生徒に気づきを与える、桐蔭学園のICT教育への挑戦」と題して講演を行いました。

ICTを活用した教育の実践



タブレット端末の活用と電子黒板などの設置が進んだことで、AL型授業の実践と合わせて授業の形態が変化しています。タブレット上の生徒の回答をその場でクラス全体に共有したり、教員が板書をする間生徒を待たせることなく説明や資料を投影したりできるようになりました。それにより、限られた授業時間の中で、AL型授業を充実させる上で欠かせないグループ学習やディスカッションの時間を確保しています。

教科や単元に応じて、タブレット端末の使い方も様々です。例えば英語では音声を使った学習が行いやすくなり、会話練習の録音や音読する姿を動画撮影するなど、聞く力、話す力を伸ばす学習を充実させています。理科のように実験を行う場面では、写真や動画撮影を行うことでより鮮明に記録を残すことができるようになりました。社会では調べ学習やプレゼンテーションなど、生徒たちの能動的な学習の機会が増えています。各教科の特性に応じて生徒の学びの質を高められるよう、引き続き工夫を重ねていきます。